

あいち病害虫情報 最新情報

平成29年 8月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

期間の前半は、晴れの日が少ない見込み

本日発表の名古屋地方气象台1か月予報によれば、向こう1か月は、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と見込まれています。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

イネ紋枯病

イネ紋枯病の発生量は、平年並です。しかし、今後、本病の発生に好適な気象条件が見込まれており、急激に上位葉に伸展する可能性があります。これから出穂期を迎える普通期栽培品種では、ほ場内を観察し、発生状況に応じて速やかに防除しましょう。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、水田内では平年並、畦畔雑草ではやや少ない状況です。また、予察灯における誘殺数もおおむね平年並の状況です。

普通期栽培品種は、これから出穂を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除をしましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、平年並の状況です。

トビロウンカは、県内6か所に設置した予察灯には誘殺されていません。ただし、水田内での発生をすでに、6月下旬と7月下旬に確認しています。トビロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがあるので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して薬剤防除をしましょう。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ

ダイズほ場内でのオオタバコガの発生量は、巡回調査が始まった平成25年以降最も多い状況です。また、豊田市及び西尾市に設置したフェロモントラップにおける誘殺数も、やや多い状況です。本種は葉以外に莢を好んで食害します。ほ場内を観察し、幼虫の発生を確認したら速やかに防除をしましょう。本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

ダイズのハスモンヨトウの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並に推移しています。今後、白変葉を確認したら早めに防除しましょう。

果樹の病害虫

チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数は、少なく推移しています。また、フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、豊川市など平坦部とスギ、ヒノキ林に近い新城市のいずれも少ない状況です。7月下旬のヒノキ球果の口針鞘数調査結果から、早ければ8月下旬、おおむね9月上旬から中旬にかけて新世代成虫の果樹園への飛来が始まると考えられます。今年は果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量がやや多いため、新世代成虫の発生量はやや多いと予測します。特に、台風通過後は果樹園への飛来が増加するので、ほ場への飛来状況に注意するとともに、まとまった飛来を確認した時は防除を徹底しましょう。

チャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町ではやや多く、蒲

郡市では6月中旬以降、多い状況が続いていましたが、現在は平年並の状況です。本種の防除適期は成虫発生ピークです。最新の気象データから予測した第5世代成虫の発生ピークは、8月1日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第3号」に記載した予測日から大府市で1日早くなり8月10日となった他は、変更ありません。ミカン果頂部が加害される時期なので、防除適期を迎えている地点では防除を実施しましょう。なお、次の第6世代成虫の発生ピーク予測日は、名古屋8月27日、大府8月28日、愛西、伊良湖9月1日、蒲郡9月2日、豊田、岡崎、豊橋9月3日、南知多9月4日、新城9月9日です。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並の状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

モモせん孔細菌病の枝病斑は見つけ次第除去し、ほ場外に持ち出し埋没するなどして適切に処分しましょう。次作への伝染源量を減らすため、秋季防除を実施しましょう。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

キクやキャベツほ場に設置したオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊川市と豊橋市でやや多い状況です。ほ場や育苗ほでの発生に注意し、適切に防除しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、東三河地域でやや多い状況です。例年、8月から9月にかけて発生量が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除をしましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、キャベツで5月から6月に多発しているほ場が見られたので、今秋作においては注意が必要です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、多い状況です。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の成虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多い地域があります。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などで防除しましょう。また、本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820